

自由民主党・創明会

県外・県内 研修報告

県外調査 福岡・大分・宮崎
2014年5月26日-28日

県内調査 南アルプス
2014年6月16日

当会派では、5月（県外）、6月（県内）の2回に
わたり政務調査を実施いたしました。

5月の県外調査では、26日から3日間、福岡、
大分、宮崎の3県を訪問しました。初日の福岡で
はJR九州を訪ね、赤字経営を克服、今はJR各
社の中でも脚光を浴びている様々な事業の展開
について唐池恒二社長から直接、その斬新な内
容を伺うことができました。

2日目の大分では、豊後高田市の「昭和の夢町
三丁目館」と別府市で温泉を核としたウェルネス
事業を展開している「NPO法人ハットウ・オンパク」
を視察しました。「昭和の夢町」は豊後高田市が
街おこしの一環として市商工観光課が推進した
事業で、本県の観光、街おこしにも非常に参考に
なるものでした。

調査最終日の宮崎では、同県が推進している「県
営団地の指定管理者制度」について、県土整備
部建築住宅課の事業展開について伺いましたが、
本県の現状にとって大いに参考になりました。

この3日間で、最も印象を受けたのはJR九州
の唐池社長との面談で、経営再建へ向けて、「気」
（気迫、勇氣、元気）の大切さを強調されていた
ことでした。

6月の県内視察は南アルプス市を訪問し、本年
2月の豪雪被害の復興状況をJAこま野南湖支所
から説明を受けました。今後も各地の状況を見守
っていく予定です。

山梨県南アルプス市（6月16日）

雪害後の再生事業への取り組みについて視察



南湖地区農業グループの皆様と復興事業の現場を視察しました



JAこま野南湖支所、小池組合長ほか役員、地域の皆様から復興状況の説明を受けました

県外調査・福岡県（5月26日）
JR九州「赤字会社の再生と地域活性化の取組」



JR九州本社会議室で
唐池社長からお話を伺う



JR九州 唐池恒二社長



大分県別府市（5月27日）

別府市における温泉と地域資源の活用

大分県豊後高田市（5月27日）

商業と観光が一体化した中心街の再生について



豊後高田市・昭和の夢町三丁目館にて



別府市 NPO法人ハットウ・オンパク
代表理事 鶴田浩一郎氏から話を聞く



別府市内商店街を視察

宮崎県庁（5月28日）

宮崎県庁にて、宮崎県で導入している指定管理制度について伺いました



宮崎県庁にて県営団地の指定管理者制度について話を聞く

九州には県政のヒントが多く眠る
ヒントを活かすべく視察をしました

No Limited Soumeikai

— 限らない挑戦 —

山梨県議会議員

自由民主党・創明会
県議会レポート

創 Vol.4
SOU

2014年夏号

【発行元】自由民主党・創明会

今、山梨の現在と未来を
真剣に考える時です

私たち自由民主党・創明会は、「豊かなふるさと山梨をつくりたい。それを
次の世代に引き継いでいきたい」という思いを同じくする県議会議員10名で会派を構
成しています。

「豊かなふるさと山梨」とは何でしょうか。「経済が豊かで、子供が伸び伸びと育ち、
誰もが安心して生活できる医療や福祉が充実していること」ではないでしょうか。

しかし、人口減少社会において、それら全てを実施することは、困難な状況にあり
ます。県行政の限られた人材と資金をいかに効率的・効果的に配分し、県民の皆様の
幸せを最大化することが求められています。我々県議会議員の責任は、一段と重
くなっていると受け止めています。

地方自治体は、行政運営のトップである知事も我々県議会議員も、県民の皆様が
直接の選挙により選出しています。ともに住民を代表する知事と県議会が切磋琢磨
し、県政を運営していかなければなりません。自由民主党・創明会は、この二元代表
制の理念を、日々の県議会活動において、具現化して参ります。

全ては、県民の皆様のためです。



お問い合わせは 【発行元】山梨県議会 自由民主党・創明会 へ 甲府市丸の内一丁目6-1 電話 055-223-1803

自由民主党・創明会は 新しい時代を拓く礎になる

私たちの信条は「県政には是々非々、県民中心の議会活動を進める」ことであります。議会の場での開かれた議論を通して、県政への公正明快なチェックと提言を使命としております

甲斐市
保延 実
Minoru Honobe

県内外に
課題は山積、
正面から対峙



マイブーム
ワイン醸造
本職のブドウ栽培から始まって、ワイン醸造に取り組み中。創業者の父を継いで30年。春夏秋冬、剪定、育成、収穫、醸造と奮戦しています。

早いもので、今年も半年が過ぎました。本年は、2月14、15日の豪雪災害、4月には消費税増税、さらにサッカー・ブラジルW杯の開催、それにNHKの朝の連続ドラマ「花子とアン」の全国放映とその人気～。南アルプスの「エコパーク」登録もありました。話題には事欠きませんでした。反面、国内状況は、大手企業を中心にした業績の復活などアベノミクス効果もうかがわれますが、中小企業や地方経済には、まだまだ実感が伴っておりません。人口減少、少子高齢化の中で、「地方自治体の消滅の危機」という衝撃的な調査情報もあります。子育てと教育、高齢者介護、福祉医療、年金制度の危機、雇用～。集团的自衛権等の国政を含め課題は山積です。私たち地方議員としては、そのすべてと対峙しなければなりません。

笛吹市
山下 政樹
Masaki Yamashita

「可能性を信じて」



マイブーム
ルーズベルト・ゲーム
「シーズンゲームの末に8対7で決着がつく試合が一番面白い」。第32代米大統領フランク・ルーズベルトが残した野球勝負の格言。すばり「ルーズベルト・ゲーム」。

「結果を出すことが大事」、よく耳にする言葉です。追い込まれながらも、「何かできることがあるはず」と最後まで一縷の望みを捨てず、結果を出すために一人ひとりが懸命に取り組む姿こそが私たちに感動を与え、心を動かすのではないかと。時に「結果より」。

結果として苦い結末にならうと、信念を持ち、努力し続けることで局面は変化することもある。人生、様々な場面で人は信じられない力を発揮します。しかし、あきらめたらそこで終わりです。

「人間には計り知れない可能性を実現する力がある」と考えます。バブル崩壊後、日本企業は一途に効率を求めて数字重視の欧米流経営哲学を採用してきましたが、最近では「やはり日本独特のやり方」の良さに気付いて、元に戻ってきているのではないのでしょうか。日本人の可能性を信じて。

笛吹市
前島 茂松
Shigematsu Maejima

「荒廃農地の
再生と農道」



マイブーム
生活信条
一、日々、生き生きしたい。
一、日々、計画と行動力を持ちたい。
一、日々、人並みに感謝したい。

全国の都道府県中、本県の荒廃農地面積は全国ワースト2位で総面積は約6,500ヘクタールに及んでいます。急峻な地形、狭い段々田畑の条件に加え、高齢化など様々な要因が挙げられていますが、条件は日本列島のどの地域も同じです。本県について考えますと、1,500年前の「大化改新」の農地区分がそのままに人、馬しか入れない農地が余りにも多く点在していることや、平均耕作面積が小さいために、長年、農地保有に強い執着心が続いたこと、さらに公的基盤整備の遅れが大きな要因だと思います。しかし今、所有者の意識は一変し、むしろ県や市町村の公的支援による活用に向かっています。本県でもこの4月、荒廃地対策を中心とする農地中間管理機構制度が発足しました。地形に合う軽トラ、SS、小型農機が入り出できる小規模農道整備が何よりも優先課題です。

甲州市
鈴木 幹夫
Mikio Suzuki

第五十五代
内閣総理大臣・
石橋湛山に学ぶ



マイブーム
甲州弁
こびっとしるし“つい口走ってしまう言葉です。連続テレビドラマの反響で東京のど真ん中で甲州弁が響き渡る時が来るのでは。

「自らの信ずるところに従って行動する」という最も大事な点を忘れ、まるで他人の道具に成り下がってしまっている人が余りにも多いような気がしてなりません。「政治の墮落」というものの大部分は、まさにこれに起因すると思います。

政治家にはいろいろなタイプの人があります。その中で、最もつまらないタイプは、自らの考えを持たない人だと思ふのです。大勢の“取り巻き”を抱えているというだけで、有力政治家と自負している人は多いのですが、本物とは言えません。信念不在の理由はいろいろあるでしょうが、要するに選挙とか、名声とかの目先の事しか見えませんかでしょうか。

湛山翁は「目上の人には盲従する。今の人たちは余りにも弱すぎる」と書き残しております。「県民市民の利益を念頭に置く」。湛山翁の志をもって進みたいものです。

韮崎市
清水 武則
Takenori Shimizu

「虚心坦懐、
「ふるさと山梨」の
発展願う」



マイブーム
心を安定
「心を安定させ、氣を和にする」。心を安定させ、穏やかな状態にして気分を和らげ、身体を健康に保ち、徳を培う。それを目指しています。

我が国は確実に人口減少社会にあります。2040年には、全国自治体の中には消滅するところもあるという危機的な予測も発表されました。本県の市町村も例外ではありません。

こうした状況の中、中部横断自動車道やリニア中央新幹線の開通は、本県の新しい時代を作り上げていく絶好の機会だといえます。

山梨の豊かな自然と文化、産業などの魅力を国内外に発信し、厳しい現状を乗り越え、さらなる飛躍を図っていかねばなりません。

そのためには、県民の皆さんとともに「ふるさと山梨」の発展のため、虚心坦懐に全力を傾注してまいらる覚悟があります。そして未来を生きていかねばならない若者たちに引き継がれるよう頑張りたいと考えています。

南アルプス市
斎藤 公夫
Kimio Saito

東京一極集中と
一極集中是正



マイブーム
リニア
13年後に開通するリニアです。山梨を大きく変えるチャンスです。“森ビル案”はそのひとつ。若者に夢をあたえなくちゃあー。

人口減少の最中、首都東京への人口一極集中が止みません。今、さらに将来も「人口分散」「一極集中是正」は大きな政治課題です。

リニア新幹線は、「物」ではなく「者」。つまり人、特にビジネスマン、情報、頭脳を運ぶものだと考えます。開業は14年後。開通すると甲府～品川間は25分です。この所要時間は、ビジネスマンが都内の新宿～品川を通勤するのと同タイムです。在京の企業本社、首都機能の一部を地震災害に強い山梨に、バックアップ機能としての移転を期待します。

例えば、「六本木ヒルズ森タワー」。54階建ての森ビルには一流企業のオフィスや商業施設、娯楽施設、医療機関や住居が同居し、1日1万6千人が勤務、2万5千人が入り出しています。夢のようですが、山梨を一変させるような構想作りが必要と考えます。

甲府市
皆川 巖
Iwao Minagawa

「まちづくり」



マイブーム
ノートパソコン
最近、新しいノートパソコンを購入しました。コンパクトなので無尽会などの会合にも持ち込み、DVDなどの動画データを仲間に見てもらい好評です。

全国どこへ行っても、「まちの活性化」と「まちづくり」が唱えられています。

私は、「誰もが歩いて楽しいまち」であることが「まちづくり」の第一歩であり、そこに住む住民がその「まちの伝統や歴史」に誇りを持ち、外からの来訪者に物語れることが大切だと思います。

甲府市は、中世武田家の城下町と近代徳川家の城下町が同じ市内に存在した数少ない「複合的城下町」という輝かしい歴史的特色を持つ都市であります。そのシンボルである甲府城をしっかりと復元整備し、通過型観光都市から宿泊型観光都市に変貌させる切り札として、経済効果を挙げることが「まちの活性化」であり、来訪者に楽しんでいただける「まちづくり」になると確信し、20年以上一貫して主張し続けております。

南アルプス市
久保田 松幸
Matsuyuki Kubota

エコパーク登録、
さらなる
地域連携を



マイブーム
ニンニク
ニンニク作りに挑戦中。一口にニンニクと言っても、種類、形、味、効能は様々。土いじりをとおして心身を健やかにして議会に臨みたいで。

この度、南アルプスが待望の「ユネスコ・エコパーク」に登録されました。関係する3県10市町村が協力して、今後の環境整備やイベントなどに取り組みます。大変喜ばしいことです。

その一方で、農業関係者は依然、鳥獣被害に悩まされております。南アルプス市の旧白根地区では、隣接の韮崎市旭地区から来る鹿やイノシシの被害に悩まされています。特に駒場地区のスモモの被害は、害獣生息地が韮崎市ということで対策の打ちようがないというのが現状です。韮崎市には対策を要望していますが、一向に改善されていません。旭地区の農家も安心できる状況にはありません。

エコパーク認定を機に、これらの課題も連携を密にして、対処していきたいものです。

南都留郡
渡辺 英機
Hideki Watanabe

現場優先、
モットーは迅速対応



マイブーム
詩吟の世界
「吟は是心の交流なり」「吟心融合して聖賢に通ず」。詩吟の世界に入り早12年。詩に込められた悠久の歴史と奥深い物語の広がり魅せられています。

私は、「政治はスピードが命」をモットーとして、「すぐ動くこと」を心がけ、現場主義に徹してきました。県政の最前線で、直接県民の皆様にお会いすることで、山梨に暮らす方々が、今、何を感じ何を必要とされているのかを、肌で感じることでき素早い対応が可能になりました。

そうした中、本年2月の記録的豪雪の際には、地域の災害現場へ急行して行政関係者や被災者の皆さんとともに、惨憺たる災害現場の調査に加わり、復旧復興への取り組みにあたりました。すさまじい被害に対して、国、県、市町村の連携した支援への取り組みにより再建への路が開けたことを感じております。

一方では、制度上の問題から支援を受けられない事案も多く、県民から切々とした要望も受けました。再建への道のりはこれからという立場で、取り組んでゆく覚悟です。

北杜市
大柴 邦彦
Kunihiko Ooshiba

昨今の社会現象で
感じるこ



マイブーム
サッカー
本年のスポーツ最大イベント・ブラジルW杯、日本の敗退残念至極。今夏、県内開催のインターハイのサッカーを楽しみにしています。

「健全」という言葉。『広辞苑』を引くと、「ものごとに欠陥やかたよりのないこと」さらには「堅実で危なげのないこと」と記してあります。もちろん「心」も「体」も健康やかで異常がないことも当然でしょう。

昨今、報道されている様々な社会の出来事を見ると、凶悪卑劣、さらに不可解な出来事があふれかえっています。医師の殺人未遂、従業員への監禁殺人、わが子への虐待～。まさに「モラルの崩壊」です。政治の世界を眺めても、都議会での女性差別のヤジ、大臣の失言など、政治家としての心構え、モラルの欠如が目立ちます。私としては、「健全な政治姿勢」を貫かなければならないと肝に命じております。県政に対しては「是々非々」の姿勢を基本に、県民生活の向上を見直す正念場にあるかとも考えています。